

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便り No.6 令和4年(2022年)9月14日

9月9日(金)開校50周年記念のマスコットキャラクターが登場!



ななしば

先週の金曜日の9月9日に、「ななきち」と「ななしば」のマスコットキャラクターを発表いたしました。既にご覧になっていたでしょうか。

本校の子供たちの思いを1つにしたキャラクターとして、全校児童の前に登場しました。

校長室便りにも、早速登場してもらいました。

これから、様々なところに登場してもらいますので、多くの方に親しんでもらえたら、有り難いところです。次の開校60周年までの10年間を子供たちと楽しく、学校生活を過ごしてもらいます。



ななきち

土曜授業参観と道徳授業地区公開講座を行います。

今週の9月17日の土曜日に、2学期1回目の授業参観を実施いたします。コロナウイルス感染症対策を徹底する上で、1学期と同様に、保護者の皆様の参観人数を制限させていただき、11月に実施予定の2回目の授業参観に分けて、ご覧いただくことにいたしました。

東京や全国の感染者数においては減少傾向にあるとはいえ、東京では、まだ1万人前後の感染者数が日々、報道されているところです。子供たちの学習環境を保障し、安全で安心した学習活動を行うためにも、工夫した開催方法が必要になっているところです。

学校公開のように、多くの地域の方や保護者の皆様にご覧いただける機会をもちたいという思いは、とても強くありますが、社会情勢や国や都において、教育活動の全てが許されている訳ではなく、子供たちの健康や安心感を守る意味からも、本校の工夫として、保護者の皆様に今回と11月実施の授業参観の2回に分散させていただき、実施することにしております。

詳細につきましては、配布しておりますお手紙をご覧ください。ご理解の程、よろしく願いいたします。

また、同日は、道徳授業地区公開講座として、授業参観では、全学級とも3時間目に道徳の授業を設定し、4時間目からは、道徳教育について、本校の校内研究の年間講師としてお世話になっております、創価大学 教職大学院 教授 石丸 憲一 先生をお迎えして、ご講演をいただきます。

石丸先生には、3時間目の授業をご覧になっていただき、学校とご家庭、地域との連携における道徳教育についてのお考えをお話しいただく予定です。子供たちの心の教育を推進していくために必要な知識や見識を深める機会として、保護者の皆様と一緒に学んでまいります。

当日は、オンラインでの配信と、3時間目の授業参観の保護者の方を中心とした会場での参加に対応するハイブリッドな形式で実施いたします。多くの方のご視聴、ご参加をお待ちしております。

国立市と北秋田市との交流

これまで国立市では、秋田県の北秋田市との交流を様々な展開してきました。コロナ禍となり、全国的に人との交流の機会が制限されていく中で、北秋田市との交流についても、制限せざるを得ない状況となり、現在に至っています。しかし、このところの感染症対策における社会状況の変化や感染者数の減少から、北秋田市とも相談の上、交流の機会を設定することになりました。

本校は、来年度、国立市の研究奨励校として、研究発表をさせていただきますが、これまで研究奨励校の1年目の学校は、北秋田市との交流を行うこととなっており、今年度、1年目である本校は、主幹教諭に代表として、研修及び交流に行ってくださいことにいたしました。

期間としては、10月24日(月)～28日(金)の1週間です。

北秋田市での研修及び交流に出張するため、前述の期間における習熟度別の算数の指導については、各学級で行うこととなります。本校の代表としてだけでなく、国立市の代表としての立場でもありますので、保護者の皆様には、北秋田市との交流にご理解をいただけましたら、有難いところ

です。開校50周年の年に、歴史の1コマとなる機会となる取組ですので、何卒、よろしくお願いたします。(コロナ禍の社会情勢の変化により、延期や中止となる場合もあります。)

学びの場の学校として

開校50周年を迎えた本校に着任して、2年目となりました。七小の子供たちの人懐っこい人柄や保護者や地域の皆様の子供たちに対する温かく、優しい関わりの様子に触れ、更により良い学校としていくためにも、校長としての頑張りを常に確かめながらの日々となっています。

現在の教育現場では、学習指導要領が求めている「主体的・対話的で深い学び」を目指して、各教員が授業改善や教材研究に挑戦するとともに、子供たちの安全で安心の日々のために、楽しい学校、楽しい教室であるよう、努力を重ねています。

この時期は、先生方の授業を観察する時期でもあり、各学級や専科教員の授業の様子、特別支援学級のくるみ学級、特別支援教室のはばたき、きこえとことばの教室の指導の様子を見ています。どの先生方も、子供たちの学びを高めるための工夫がされており、子供たちの表情や取組の様子を見ていても、多くの子供たちが落ち着いて取り組んでいます。



上記のような授業や指導の様子を見ていて、いつも思うことは、「楽しい」授業の「楽しい」とは、どういうことかということです。子供たちからしてみれば、楽しい=面白い・分かりやすい・活動的・自由さ等々、子供たち一人一人が学びの場で感じる思いを、授業や指導の中で、どのように表現していくのかということになります。例えば、教材の見せ方(教材の提示)、指導をするときの身振り手振り、黒板に書く内容の書き方(板書計画)、最近の様々なネットやメディアの情報の活用方法、子供たちが親しみやすく、適切で分かりやすい言葉遣い、等々。このような教員自身の学びは、実は、子供たちがもつ学びへの気持ちや意識を変えていきます。

これからも、学びの場の学校としての七小であり続けられるよう、そして、楽しい学校、楽しい教室であり続けられるよう、教職員と協働しながら、努力してまいります。

【校長のつぶやき】

今年で教員として32年目となりました。自分でも、よくぞここまで続けられたものだ改めて驚くと同時に、感謝もしています。

改めて、教員経験を振り返ってみると、学級担任の経験として15年、少人数算数担当は4年、校長・副校長として、11年です。また、公務災害となった交通事故で2年間の休職をしたことも含まれるので、合計32年です。担任をした学年の回数を数えてみると、1年生は2回、2年生は1回、3年生は4回、4年生は6回、5年生は1回、6年生は1回でした。担任時代に全ての学年を経験できたことは、有り難いことでした。



当時は、低学年を専門的に担任している先生や高学年を専門的に担任している先生など、様々な学年を経験することや、様々な立場や担当となる体制でない等、様々な面で教育改革が進み始める頃でもありました。また、ベテラン教員が多く、若手教員が少ない時代でもありました。

その他にも、教員になった頃は、土曜授業が行われていましたし、5時間授業が基本的な設定であり、長期休業前は、短縮授業期間として、午前授業が設定されていました。更には、各校で長期休業の始まりの日や終わりの日が違うということもなく、長くお休みがありました。

それでも、当時から、日本人の働き過ぎが世界的に注目され、週5日制が社会的にも推進されました。また、その波は、教育現場にも波及してきました。

学習の面でも、大きな変化がありました。低学年の理科や社会がなくなり、生活科が導入されました。音楽や図工の時間が少なくなり、総合的な学習の時間が設定されました。特に生活科は、理科や社会でないことが強調されていて、遊びを通して学ぶことや理科的、社会的にならないように、学びが図られました。生活科の教科書や学習の内容についても不安定な要素がいくつもあり、多くの先生方が知恵と工夫を凝らし、子供たちと一緒に学習を確立していた時でもありました。総合的な学習の時間についても、様々な取組が存在し、先生が変わると内容が変わるなど、今と比べても、多くの不安定要素がありました。

その他にも、ゆとり教育における学習内容の削減や6時間目の授業の増加、遠足や校外学習等の学校行事の削減、クラブの時間の60分化、等々。本当に変化、変化の教員人生といっても過言ではないと思います。変化に対応できたかどうかは分かりませんが、多くの経験と体験は、今の私を形作っていることには、間違いありません。